

13 生活支援技術セミナー初級・中級編

申請者氏名（代表者） 金城 祥教、柴山 順子		所属部門	人間健康学部 共催 北部地区医師会病院		
企画名 「生活支援技術セミナー初級・中級編」 講師：筑波大学名誉教授 紙屋克子先生					
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）					
<p>わが国では、看護・介護の必要性については広く知られているものの、その役割については十分に理解されているわけではありません。その一方で、社会の多様なニーズに応えるために看護・介護を取りまく周辺領域には新しい有資格職の誕生が相次いでいます。看護者が行う日常生活支援の中には、専門職からひいては素人の家族さえできる行為まで、幅広い技術の存在が確認されます。</p> <p>しかしながら生活支援の専門職として看護者が提供する技術には目的・方法・効果の期待において、他の専門職と明確な違いがなければなりません。専門職としての看護の力を存分に発揮し、臨床看護の発展に力を尽くすためには今一度、看護・介護の原点から本来の機能である生活支援の活動について、見直すことが必要です。臨床看護者は患者に対してはケアの実践者であり、看護実践の発展を直接的に担う研究者であり、それを後継者に伝え、優れた実践者を育てる教育者ともなります。</p> <p>日々くり広げられる看護の諸事実に科学の光を当て、成果を確認することは患者への貢献と共に、専門職としての誇りと喜びを見いだす活動にもなるはずです。</p> <p>専門職として常に時代の要請にこたえ、新しい課題に挑戦する実践者となるために、ナーシングバイオメカニクスに基づく看護技術の理論と実践ならびに最近の研究の成果について紹介します。</p> <p>また、患者に変化を起こす看護と生活行動再獲得のための基本技術については、実技演習で確認する。</p>					
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）					
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考	
金城 祥教	名桜大学人間健康学部	総合看護		総括	
名城 一枝	名桜大学人間健康学部	基礎看護		備品管理	
大城 凌子	名桜大学人間健康学部	基礎看護		備品管理	
伊波 弘幸	名桜大学人間健康学部	基礎看護		備品管理	
柴山 順子	北部地区医師会病院	副院長兼看護部長		運営・進行	
金城 明子	北部地区医師会病院			インストラクター補助	
成田 奈緒子	北部地区医師会病院			協力者	
具志堅 時乃	北部地区医師会病院			協力者	
大城 伊子	沖縄愛楽園			インストラクター補助	
金城 千恵美	看護実践教育研究センター			受付・事務	

企画実施報告(参加人数等を明記)

- 1) 初級開催日時：平成 25 年 8 月 31 日(土) 9:00～17:00、9 月 1 日(日)9:00～15:00
中級開催日時：平成 26 年 1 月 12 日(日) 9:00～17:00、1 月 13 日(月)9:00～15:00
- 2) 場所：北部地域看護人材育成支援施設(名桜大学看護学科棟)2階 基礎看護実習室
- 3) 対象：看護・介護職
- 4) 講師：紙屋克子(筑波大学名誉教授・名桜大学非常勤講師)
演習指導者：(株)ナーシングサイエンスアカデミー 技術統括責任者 原川静子
田部井淑子 木村恵子 伊藤徳子 日高紀久江
- 5) 内容：初級編
①講義「生活支援技術の基礎理論と実践」②Physical assessment 人の身体と看護介入(ナーシングハンドケア)下肢帯・下肢の例、1)視察(観察)・触診によるアセスメント、2) 方法、3) ナーシングハンドケア③体位変換④バランスボールを活用したケアを実践する人のためのエクササイズ 等
内容：中級編(初級編振返り含む)
①腰臀部の拳上②パジャマの着用③移乗④上級技術の紹介 その他演習

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

・アンケート結果より

1) 総合評価(回答者述べ 62 人中 59 人)

①良かった 55 人 ②やや良かった 4 人

2)ご意見・ご感想等

①とても参考になった。中級・上級編を継続開催してほしい。

②今後、患者様のために生活支援技術を取り組んでいきたい。

③患者様へのケアの提供を再認識した。

3)評価

紙屋克子先生直接指導のもと、生活支援技術を理論的・実践を通して学ぶことができ、参加者からは「現場で活かしたい」との高い評価を受けた。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

今後の課題提案について

生活支援技術を習得し、広く普及・伝達され看護技術者の養成を構築していきたい。

①入院治療から在宅までの活動連携・継続

エビデンスの確立(実践成果の集積、自然回復例などの判別)生活予後診断、フローチャート、パスなどの進化。

②支援システムの構築(チーム医療、地域包括医療、生活・家族・支援福祉相談)

③他職種連携モデル事業の提案(専門外来・医療・看護・介護・リハビリ)(実践病院の拡大)

ケアに活かせる技術を体験的に学ぶことは、地域のニーズに応じた企画であると共に、ケアの質の向上に貢献できることを期待。

※平成 26 年度も 7 月、11 月に開催予定。

生活支援技術セミナー初級・中級編の様子



写真：講義 「生活支援技術と理論」 講師 紙屋 克子 先生



写真：トランスファーシートを使用しての体位変換



写真：初級編バランスボールを活用したエクササイズ



写真：ベットからの移動方法



写真：中級編腰臀部の拳上(協力が得られる場合、麻痺がある場合)



写真：中級編移動(持ち手ズボンを活用した方法 ベット⇄車椅子)